

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育者論	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 長谷川 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士の定義や現在保育士に何が求められているかなどの課題を踏まえ、専門職としての役割、使命を理解できる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の現場において保育者に求められる働きは多岐にわたるが、その保育者の毎日の働きがどのような意味を持っているのか、そこで尊重していくべきことは何であり何が期待されているのかを考え学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の役割と倫理について理解する。 ・ 保育士の制度的な位置づけについて理解する。 ・ 保育士の専門性について考慮し、理解する。 ・ 保育者の連携・協働について理解する。 ・ 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 			

<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ「保育者論」を学ぶのか 2. 保育をおこなう者の多様性① 3. 保育をおこなう者の多様性② 4. 保育者の倫理 5. 保育の場面での倫理 6. 信頼される保育者になるために① 7. 信頼される保育者になるために② 8. 保育者の専門性と遊び 9. 保育者の専門性と環境

<ol style="list-style-type: none"> 10. 保育者の専門性と生活 11. 保育者の専門性と子育て支援 12. 保育者の専門性 13. 保育者の連携・協働 14. 保育者の資質向上とキャリア形成 15. 定期試験
--

<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからの保育者論 萌文書林 	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合
---	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅲ	授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 松本 貴子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の一日の流れを把握し、入所児童や入所者とコミュニケーションを図ることにより利用者の理解を深め、施設の意義と今日的役割を理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して個々の利用者の実態を把握し、集団生活について理解する。 ・実習を通して好ましい援助の方法を具体的に体得する。 ・実習を通して施設職員の役割と連携を理解する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の概要を把握し、施設に実際に理解すると共に、利用者や施設の意義を学ぶ。 ・保育士としての意識を高め、技術を習得することができる。 ・自らの施設実習における課題を明確にして取り組み、保育者として豊かな人間性を育む。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅰ (施設) の実習予定先施設について調べる、誓約書と調書の作成 2. 実習に臨むにあたり記入 (下書き) 3. オリテの話をし、予約を取る・概要用紙配布・巡回担当発表 4. 入所児 (者) についてビデオの視聴、頭髪検査 5. 車いす、着脱実習 6. 施設実習の日誌の書き方、日々のねらい作成、持ち物検査 7. 日誌用紙配布、ラジオ体操 8. 保育実習Ⅲ (施設) の実習予定先施設について調べる、誓約書と調書の作成 9. 実習に臨むにあたり記入 (下書き) 10. オリテの話と予約・概要用紙配布・巡回担当発表 11. 支援案作成 12. 持ち物検査・頭髪検査、日々のねらい作成 13. 日常生活場面を想定した気づきの練習 14. DVD を観て気づきの書き起こし 15. 日誌用紙配布、責任実習の流れ確認 			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<ul style="list-style-type: none"> ・ m e w 保育教本 ・ 必要に応じて資料プリントを配布 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 課題提出状況および修得状況が到達目標の 6 割以上と認められる場合 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)		授業担当者 小林 智子・鶴川真裕美 (全員 実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って実習に取り組めるように学ぶとともに、実習記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技能を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの観察や関わりの方眼点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 ・保育計画、実践、観察、記録等について実際に取り組み、理解を深める。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての意識を高め、技術を習得することができる。 ・自らの保育実習における課題を明確にして取り組み、保育者として豊かな人間性を育む。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅰ (施設) の実習予定先施設について調べる、誓約書と調書の作成 2. 実習に臨むにあたり記入 (下書き) 3. オリテの話をし、予約を取る・概要用紙配布・巡回担当発表 4. 入所児 (者) についてビデオの視聴、頭髪検査 5. 車いす、着脱実習 6. 施設実習の日誌の書き方、日々のねらい作成、持ち物検査 7. 日誌用紙配布、ラジオ体操 8. 保育実習Ⅱ (保育所) の実習予定先施設について調べる、誓約書と調書の作成 9. 実習に臨むにあたり記入 (下書き) 10. オリテの話と予約・概要用紙配布・巡回担当発表 11. 指導案作成 12. 持ち物検査・頭髪検査、日々のねらい作成 13. 保育の場面を想定した気づきの練習 14. 日誌 (DVD) を観て気づきの書き起こし、歯磨き指導について 15. 日誌用紙配布、責任実習の流れ確認 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ mew保育教本 ・ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画 (萌文書林) ・ 必要に応じて資料プリントを配布 			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 課題提出状況および修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合 		

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名) 保育実習Ⅲ	授業の種類 実習	授業担当者 長谷川 智子・瀧澤 延子 小林 智子・松本 貴子 (全員 実務経験者)	
授業の回数	時間数(単位数) 90時間(2単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・施設の一日の流れを把握し、入所児童や入所者とコミュニケーションを図ることにより利用者の理解を深め、施設の意義と今日的役割を理解する。			
[授業全体の内容の概要] ・実習を通して個々の利用者の実態を把握し、集団の生活について理解する。 ・実習を通して好ましい援助の方法を具体的に体得する。 ・実習を通して施設職員の役割と連携を理解する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・施設の概要を把握し、施設の実際を理解するとともに、利用者や施設の意義を学ぶ。			
[実習方法] 施設での生活に参加し、生活・学習・余暇活動等、援助について体験的に理解する。			
[実習段階の具体的な内容]			
①見学・観察実習 施設での指示を仰ぎながら生活の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児・者のおおまかな行動と展開、それにとまなう職員の対応を把握する。			
②参加実習 担当職員の指示に従い、生活に参加する。対象児・者と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育(養護)の援助を学ぶ。			
③責任実習(部分実習) 施設での指示を仰ぎながら可能であれば一日の流れの部分において、事前に支援案を作成し主体的に保育を実践する。			
④責任実習(全日実習) 実習先での一日の流れを通して、学習したあらゆる知識・技術・技能を統合する。担当保育士の助言を受けつつも、実際に自己の支援計画を前面に打ち出し、保育士としての責任の一端を担い、ほぼ終日保育活動を行うとともに、それに関連した保育業務を担当する。			
[実習の課題]			
・保育実習Ⅰの経験を踏まえ、支援案に基づいた責任実習を行う。 ・実習施設の内容や機能、保育士の役割と求められる専門性、対象児・対象者とそのニーズについての理解を深める。 ・よき保育士になるための自覚と今後の学習目標を明確にする。			

<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>Mew 教本、実習の手引き</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none">・必要実習時間の参加が必要・実習先からの評価表を参考に実習態度、保育技術等で評価し、到達目標の6割以上の修得が必
---	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習Ⅱ	授業の種類 実習	授業担当者 瀧澤 延子・長谷川 智子 小林 智子・松本 貴子 (全員 実務経験者)	
授業の回数	時間数 (単位数) 90 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・保育実習は学内で学習した理論を、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] ・実習を通して個々の子どもの実態を把握し、乳幼児集団について理解する。 ・実習を通して保育士の援助の方法を習得する。 ・実習を通して保育計画を理解し指導計画の立案の実際について学び実践する。 ・実習を通して保育士集団の役割を理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・部分実習を行うことで保育と子どもについて実践的に学ぶ。 ・乳幼児との関わりを通して子ども理解を確かなものにする。 ・保育士の役割や専門性を知り、必要な知識や技術を習得する。			
[実習方法] 保育所での生活に参加し指導案計画の具体的立案の方法を保育の実践に即して理解する。 [実習段階の具体的な内容] ①見学・観察実習 保育の実際の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児のおおまかな行動と展開、それともなう保育士の対応を把握する。 ②参加実習 担当保育士の指示に従い、保育士の助手として参加する。対象児と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育士の援助を学ぶ。 ③責任実習 (部分実習) 保育場面の一日の流れの一部分に対して、事前に指導案を作成し主体的に保育を実践する。 ④責任実習 (全日実習) 実習先での一日の保育の流れを通して、学習したあらゆる知識・技術・技能を統合する。担当保育士の助言を受けつつも、実際に自己の支援計画を前面に打ち出し、保育士としての責任の一端を担い、ほぼ終日保育活動を行うとともに、それに関連した保育業務を担当する。 [実習の課題] ・保育実習Ⅰの経験を踏まえ、指導案に基づいた責任実習を行う。 ・保育所保育士としての意識を高め。全般的な技術を習得する。 ・よき保育士になるための自覚と今後の学習目標を明確にする。			
[使用テキスト・参考文献] Mew 教本、実習の手引き		[単位認定の方法及び基準] ・必要実習時間の参加が必要 ・実習先からの評価表を参考に実習態度、保育技術等で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名) 保育実習 I (施設)		授業の種類 実習	授業担当者 瀧澤 延子・長谷川 智子 小林 智子・松本 貴子 (全員 実務経験者)	
授業の回数	時間数 (単位数) 90 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の一日の流れを把握し、入所児童や入所者とコミュニケーションを図ることにより利用者への理解を深める。 ・施設の意義と今日的役割を理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して利用者の生活を理解する。 ・実習を通して福祉施設の内容や機能を理解する。 ・実習を通して保育士・施設職員の役割と連携・協働を理解する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の概要を把握し、施設の実態を理解できる。 ・保育士の幅広い職務を知り、保育士の専門性について深く理解できる。 				
<p>[実習方法]</p> <p style="padding-left: 40px;">施設での生活に参加することにより、一日の流れを全体的に把握し、利用者の生活の観察、職員の業務の観察を通して支援の在り方を理解する。</p> <p>[実習段階の具体的な内容]</p> <p>① 見学・観察実習</p> <p style="padding-left: 40px;">施設側の指示を仰ぎながら生活の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児・者のおおまかな行動と展開、それにとまなう職員の対応を把握する。</p> <p>② 参加実習</p> <p style="padding-left: 40px;">担当職員の指示に従い、生活に参加する。対象児・者と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、個々の状態に応じた保育(養護)の援助を理解する。</p> <p>③ 責任実習(部分実習)</p> <p style="padding-left: 40px;">施設側の指示を仰ぎながら可能であれば生活面あるいは遊びなど一日の流れの一部において、事前に支援案を作成し主体的に保育を実践する。</p> <p>[実習の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者の生活を理解する。 ・日課に沿って保育士・施設職員の活動と援助を多面的に理解する。 ・自ら準備した課題を保育の場で実践する。 ・保育士を志す者としての自覚を高める。 				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>Mew 教本…本校独自のテキストを使用</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要実習時間の参加が必要 ・実習先からの評価表を参考に実習態度、保育技術等で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要 		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育の造形表現Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 溝口 敏美 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>幼児の知的好奇心や豊かな感性を育成できるよう美的環境や玩具・遊具を作成し、活用法を考える。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>幼児の発達段階に即した遊具・玩具を身近な素材を用いて美的・創造的に製作する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>幼児を良く理解し、美的・総合的な作品づくりが工夫でき、多様な遊び方を展開できるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 「幼児の発達段階における造形表現について」</p> <p>2～7 「物語を絵にする」 絵芸居の制作や絵カードの制作と演出</p> <p>8～11 「土の玩具」 粘土でお飾りや動物の玩具作成、焼成、彩色</p> <p>12～15 「遊具・玩具の製作」 身の回りの日用品を使って、伝承玩具、パクパク人形、木登り、びっくり箱等の製作 色コマを製作中間混合を演出する</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・授業態度と、各課題の提出物で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業タイトル (科目名) 保育の身体表現Ⅱ		授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)		授業担当者 平沢 康子 (他1名) (実務経験者)			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期		必修・選択 選択			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実際に運動遊びを体験していくなかで、多くの動作の組み合わせ方、様々な遊具の使い方、遊具やその場の意味づけ、その場の雰囲気やルールづくりを具体的な展開を通して学ぶ。また、リズムに合わせた運動あそびと身体表現を修得する。</p> <p>[授業の全体の概要]</p> <p>各種の身体表現 (運動遊び、リトミック、ダンス等) を通して、子どもの生きる力を育てるための知識や技能を学ぶ。また、具体的な展開のための技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到着目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く環境を理解した上で、保育環境を充実させるための手法を理解する。 (年間計画の作成方法など) 2. コミュニケーション能力を高め、子どもの豊かな感性を育てる手法を理解する。 3. 安全管理等を含む指導上の留意点を理解する。 <p><実技></p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 音やリズムにあわせた表現運動の具体的な展開のための技術を習得する。 5. 多様な動きづくりのための具体的な展開方法を習得する。 6. 遊具や用具等の特性を理解し、活用方法を習得する。 							
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding-right: 20px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明 2. 子どもを取り巻く環境を考える 3. 子どもの生活習慣と生活リズム 4. 乳幼児期の心身の発育発達について 5. 身体感覚を高める運動遊びについて 6. 運動指導時のコミュニケーションスキル 7. 子どもの生きる力を育てる運動指導例 8. バランスの良い身体をつくる4つの運動 9. 用具を使った運動種目の指導方法 10. 年間計画の作成方法 11. 指導上の留意点 12. 安全管理について 13. リズム体操、ダンスの創作手法 14. 実技試験 (グループ発表) 15. 筆記テスト </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border: none;"> <p><実技>リトミックの活用方法</p> <p>音・リズム遊びの展開方法</p> <p>ふれあい・じゃれつき遊びの実践</p> <p>神経・筋協応の運動遊び</p> <p style="text-align: center;">〃</p> <p style="text-align: right;">の展開方法</p> <p>支持力を高めるための動きを考える</p> <p>バランス能力を高める</p> <p style="text-align: center;">〃</p> <p>フープ、縄などの用具を活用した遊び</p> <p>マット、鉄棒などの種目の実践</p> <p>水泳指導、水遊びの指導方法</p> <p>クロストレーニングの展開方法</p> <p>固定遊具等の活用方法</p> <p>リズム体操、ダンスの展開のし方</p> </td> </tr> </table>						<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明 2. 子どもを取り巻く環境を考える 3. 子どもの生活習慣と生活リズム 4. 乳幼児期の心身の発育発達について 5. 身体感覚を高める運動遊びについて 6. 運動指導時のコミュニケーションスキル 7. 子どもの生きる力を育てる運動指導例 8. バランスの良い身体をつくる4つの運動 9. 用具を使った運動種目の指導方法 10. 年間計画の作成方法 11. 指導上の留意点 12. 安全管理について 13. リズム体操、ダンスの創作手法 14. 実技試験 (グループ発表) 15. 筆記テスト 	<p><実技>リトミックの活用方法</p> <p>音・リズム遊びの展開方法</p> <p>ふれあい・じゃれつき遊びの実践</p> <p>神経・筋協応の運動遊び</p> <p style="text-align: center;">〃</p> <p style="text-align: right;">の展開方法</p> <p>支持力を高めるための動きを考える</p> <p>バランス能力を高める</p> <p style="text-align: center;">〃</p> <p>フープ、縄などの用具を活用した遊び</p> <p>マット、鉄棒などの種目の実践</p> <p>水泳指導、水遊びの指導方法</p> <p>クロストレーニングの展開方法</p> <p>固定遊具等の活用方法</p> <p>リズム体操、ダンスの展開のし方</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明 2. 子どもを取り巻く環境を考える 3. 子どもの生活習慣と生活リズム 4. 乳幼児期の心身の発育発達について 5. 身体感覚を高める運動遊びについて 6. 運動指導時のコミュニケーションスキル 7. 子どもの生きる力を育てる運動指導例 8. バランスの良い身体をつくる4つの運動 9. 用具を使った運動種目の指導方法 10. 年間計画の作成方法 11. 指導上の留意点 12. 安全管理について 13. リズム体操、ダンスの創作手法 14. 実技試験 (グループ発表) 15. 筆記テスト 	<p><実技>リトミックの活用方法</p> <p>音・リズム遊びの展開方法</p> <p>ふれあい・じゃれつき遊びの実践</p> <p>神経・筋協応の運動遊び</p> <p style="text-align: center;">〃</p> <p style="text-align: right;">の展開方法</p> <p>支持力を高めるための動きを考える</p> <p>バランス能力を高める</p> <p style="text-align: center;">〃</p> <p>フープ、縄などの用具を活用した遊び</p> <p>マット、鉄棒などの種目の実践</p> <p>水泳指導、水遊びの指導方法</p> <p>クロストレーニングの展開方法</p> <p>固定遊具等の活用方法</p> <p>リズム体操、ダンスの展開のし方</p>						
使用テキスト・参考文献 ・プリント配布			[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験と実技試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要				

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育の心理学Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 長谷川 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 ・ 子どもひとり一人の発達に対応した教育的対応についても理解を深める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>学習 (学び)、知的好奇心、発達と個人差などについて、学習し理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育における発達援助について説明することができる。 ・ 保育現場での事例を通して子ども理解を深め、一人ひとりに応じた対応を理解することができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども理解における発達の把握 2. 個人差や発達過程に応じた保育 3. 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 4. 環境としての保育者の関わりと子どもの発達 5. 子ども相互の関わりと関係作り 6. 自己主張と自己抑制 7. 子ども集団と保育の環境 8. 子どもの生活と学び 9. 子どもの遊びと学び 10. 基本的生活習慣の獲得と発達援助 11. 主体性を尊重した発達援助 12. 発達の課題に応じた援助や関わり 13. 発達の連続性と就学への支援 14. まとめ 15. 期末試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『保育の心理学Ⅱ 演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助』 (萌文書林) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合 	

授業概要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名) 保育の音楽表現Ⅲ	授業の種類 (演習)	授業担当者 竹内公一・佐々木陽子・中澤美和子 江口裕子・渡邊若菜・坂井恵美子・玉橋寿子
		(全員 実務経験者)

授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 選択
--------------	-------------------------	------------------	-------------

[授業の目的・ねらい]
保育現場で必要とされるピアノ演奏、童謡の弾き歌いを基礎から習得する。

[授業全体の内容と概要]
各クラスを2グループに分け、全体レッスン受講以外の学生はピアノの個人レッスンを受ける。全体レッスンでは声楽レッスンを取り入れ、コード伴奏による童謡の弾き歌いをできるようにする。個人レッスンではグレード制(歌唱教材伴奏法による)を取り入れ、個人の進捗状況に合わせて担当教官の指導を受ける。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ハ、ニ、ヘ、ト長調のスケール・4種のコードによるカデンツの習得。
- ハ、ニ、ヘ、ト長調の簡単な童謡をコード伴奏で弾けるようにする。・グレード5級(歌唱教材伴奏法 no.61 と no.62)の取得。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

2年前期	理論・他	スケール	コード	実践	個人レッスン
①	調と調号の復習	C・F・Gdur	C・F・Gdur	春休み課題 Cdur どんぐりころころ 片手 Cdur 朝のうた 片手	
②	礼奏	C・F・Gdur Ddur	C・F・Gdur Ddur	両手 Cdur おかえりのうた 歌・片手	グレード試験
③				弾き歌い 片手→両手	
④	礼奏小テスト			Cdur こいのぼり 片手 両手	
⑤				弾き歌い	グレード試験
⑥	声楽レッスン				
⑦	礼奏 授業の最初と最後に 学生に弾かせること	C・F・Gdur Ddur	C・F・Gdur Ddur	弾き歌い Ddur おててをあらしましょう 歌・片手	
⑧				Ddur おつかいありさん 歌・片手 両手	グレード試験
⑨		Ddur スケールカデンツ小テスト		両手 弾き歌い	
⑩				弾き歌い Fdur たなばたさま 歌・片手	
⑪				Gdur うみ 歌・片手 両手	グレード試験
⑫				両手 弾き歌い	
⑬				弾き歌い	
⑭		復習			グレード試験
⑮	実技試験				

[使用テキスト・参考文献] ・ こどもの歌ベストテン ドレミ出版 ・ 歌唱教材伴奏法 バイエルとツェルニーによる 教育芸術社	[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 実技試験と筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が
--	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 乳児の発達と保育Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 長谷川 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所における 3 歳未満児への保育の内容や方法を具体的に学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>3 歳未満児の保育所における基本的生活をテキストや参考資料、映像資料を基に理解した上で、各時期に必要な保育方法の知識を習得していく。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 歳未満児の保育所における基本的生活を理解し、各時期の保育内容や保育方法、援助のポイントがわかる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 0 歳時期前半の保育 3. 0 歳時期後半の保育 4. 離乳食について 5. 離乳食の演習に向けて 6. 離乳食調理演習 7. 1 歳時期の保育 8. 乳児期の噛みつき 9. 2 歳児期の保育 10. 乳児のイヤイヤ期 11. 排泄の自立に向けた援助 12. 着脱の援助 13. 着脱の援助実践 14. これまでの学びのまとめ 15. 期末試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『乳児の保育新時代』 (ひとなる書房) ・ 必要に応じて資料プリント配布 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 筆記試験の修得状況が到達目標の 6 割以上と認められる場合 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 相談援助	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 大矢 アキ子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・ 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>近年保育の現場ではソーシャルワークの技術を有することが求められています。本授業では知識だけでなく実践の場でその技術が活用できるよう、具体的で身近な事例を取り上げて学習します。自分を理解し人間性を高め、対人援助者としての素養を身に付け専門職としての援助技術を習得することを目指します。コミュニケーション力、聴く力、観察力を演習を通して身につけます。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>相談援助の理論だけでなく、事例演習を通して相談援助の技術の習得をします。グループワークを通して、自分を知り、他人を理解し、コミュニケーション能力を養います。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>相談援助に必要な専門知識の習得。コミュニケーション力、観察力、人の話を聞く力、それらが身についたかどうか、グループワークを通して確認する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代の子どもの生活環境の変化と生活課題 子どもの生活支援のために必要な相談援助 2 相談援助活動の理解① 相談援助活動の理解② 3 相談援助の基本的な技術と心得 面接活動とコミュニケーション技術① ビデオ 4 面接活動とコミュニケーション技術② 5 面接活動とコミュニケーション技術③ 6 保育士に求められる基本的な姿勢① 7 保育士に求められる基本的な姿勢② 8 相談援助の具体的な展開過程 9 相談援助の展開過程の実際 10 相談援助における記録 11 相談援助の質を高めるためのアプローチ方法 12 相談援助の専門家・関係機関との連携 13 保育士とソーシャルグループワーク① 14 保育士とソーシャルグループワーク② 15 定期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助 (ミネルヴァ) ・ 参考文献 ・ 演習・保育と相談援助 (株) みらい ・ 保育者のための相談援助 (萌文書林) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 筆記試験の修得状況と課題提出状況および修得状況が到達目標の 6 割以上と認められる場合 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 専門演習 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 長谷川 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・ 保育実習の経験から子どもの観察や関わりの視点を振り返り、総合的に保育者の本質的精神・保育技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] ・ 既習の教科や実習の経験を踏まえ、施設の役割・機能・社会的役割について具体的に理解を深めるとともに、保育の専門家としての見識を持てるよう学習を行う。 ・ 保育実習体験報告会を通して、自らの実習体験を振り返る。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 保育者養成における学びが実際の保育にどのようなようになっていくのか、学生自身が各々の課題に気づき、自ら保育者にふさわしい資質を養おうとする態度を持つようにする。 ・ 保育実習体験報告会で、他者と自らの体験と比較し共有することで、新たな保育観や子ども観を見出し、お互いの学びにつなげる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 実習を振り返り実習生としての姿勢を評価する 2. 実習を振り返り子どもへの対応を評価する 3. 評価とは何か～自己評価と他者評価～ 4. 実習の課題の達成度を振り返る 5. 実習を通して印象に残ったことを振り返る 6. 保育者から学んだことを振り返る 7. 子ども達から学んだことを振り返る 8. 部分実習の成功・失敗体験を振り返る 9. 実習園の指導者からのアドバイスを振り返る 10. 実習を終えて自分自身の変化を明確にする 11. 今後の課題を明確にする 12. 今後の課題克服に向けての取り組みを明確にする 13. 保育実習体験報告会に向けて 14. " " 15. 保育実習体験報告会を通しての学び・気づきをまとめる			
[使用テキスト・参考文献] 必要に応じて資料プリントを配布する。		[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験の修得状況と課題提出状況および修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 障がい福祉		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 松本 貴子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉に関する法制度やサービスなどについて理解を深める。 ・ 障害のある子どもに対するアセスメントや支援についての理解を深める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理念や法律について解説する。 ・ 各障害について理解するとともに、障害のある子どもの支援について学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉に関する法制度やサービスについて理解し、現状とその課題について考えることができる。 ・ 障害や障害のある子どもについて理解を深め、生活実態を把握することができる。 ・ 障害のある子どもに対する支援について理解し、その実践について自身の考えを持つことができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “障害”の捉え方 2. 障害福祉とは何か 3. 障害福祉の法制度とサービス 4. 身体障害児・者の理解と支援 5. 知的障害児・者の理解と支援 6. 発達障害児・者の理解と支援 7. ASDの理解と支援 8. 自閉症児・者の理解と支援 9. ADHD (注意欠如・多動性障害)の理解と支援 10. LD (学習障害)の理解と支援 11. 就学・就労支援に向けて① 12. 就学・就労支援に向けて② 13. 障害者の社会参加への援助 14. まとめ 15. 定期試験 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>障害児保育 ～子どもとともに成長する保育者を目指して～ (萌文書林)</p> <p>必要に応じて資料を配布します。</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験の修得状況と課題提出状況および修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合 		

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 社会的養護内容	授業の種類 (講義・ 演習 ・実技)	授業担当者 佐藤 彰 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>児童福祉施設を利用する子どもは様々な事情を抱えており、児童福祉施設の職員は、その状況を十分に理解し、子どもの日常生活に寄り添いながら、援助者としての適切な対応を行わなければならない。</p> <p>本授業では、施設で生活する子どもが抱える問題や課題について事例を通して考察し、援助者としての支援方法や援助技術のあり方について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの理解を踏まえ社会的養護の基礎内容について理解をする。施設養護並びに家庭養護の生活特性及び実際を学ぶ、また様々な支援計画、記録が作成できるようになる。保育の専門性と相談援助の知識並びに技術の習得を図る。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の内容を理解できる。 ・社会的養護の実際を理解できる。 ・社会的養護における支援の計画・記録・自己評価を理解できる。 ・社会的養護に関する関わる専門的技術について事例を通して理解できる。プロセスについて理解し説明できる。 ・社会的養護の課題と展望について自分の考えを持つことができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的用語にかかわる施設での保育士の役割 2. 保育士の倫理・専門性 3. 社会的養護の理念と役割 4. こどもの権利とは 5. 施設での暮らしの実際と権利擁護 6. 子どもの権利を守るしくみ 7. 施設養護のプロセスⅠ 8. 施設養護のプロセスⅡ 9. 事例検討・養護施設の実践Ⅰ 10. 事例検討・養護施設の実践Ⅱ 11. 事例検討・養護施設の実践Ⅲ 12. 事例検討・養護施設の実践Ⅳ 13. 事例検討・養護施設の実践Ⅵ 14. 事例検討・養護施設の実践Ⅶ 15. 期末試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 演習・保育と社会的養護内容 みらい		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

()

授業のタイトル（科目名） 教育原理	授業の種類 （ 講義 ・演習・実技）	授業担当者 田村 人志	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（1 単位）	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>教育という人間の営みの根源に焦点を当てながら、古来から現在までの教育に対する取り組みを概観していく。現在の学校教育制度の成り立ちと変遷を確認しながら、すべての人の学ぶ権利の拡大と教師とは何か、学校とは何かについて学ぶことを目的とする。現在社会における学校を取り巻く環境の変化を理解しながら「教育問題」への取り組む視点を学んでいく。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間活動における教育について説明できる ・現在の教育に影響与えた教育思想について説明できる ・日本の学校制度の変遷について説明できる ・だれもが受けることの教育のあり方について説明できる ・現代の教育問題にはどのようなものがあるか指摘できる 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1 回 4/5 教育とは何か・人間形成の根源と価値</p> <p>第 2 回 4/12 発達と社会化</p> <p>第 3 回 4/19 古代からの教育思想の変遷</p> <p>第 4 回 4/26 学校教育制度の変遷</p> <p>第 5 回 5/10 日本国憲法下の教育施策</p> <p>第 6 回 5/24 遊びを通じた学習</p> <p>第 7 回 5/31 就学後カリキュラム</p> <p>第 8 回 6/21 特別支援教育への展開</p> <p>第 9 回 6/28 教師の仕事とは</p> <p>第 10 回 7/5 社会の中の学校組織</p> <p>第 11 回 7/12 多文化社会における教育制度</p> <p>第 12 回 7/19 教育機会の拡大と生涯学習</p> <p>第 13 回 7/26 学校教育の問題</p> <p>第 14 回 8/2 教育問題の現状</p> <p>第 15 回 8/9 期末試験</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>なぜからはじめる教育原理 [第 2 版] 建帛社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と環境Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 瀧澤 延子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」が意図しているねらいや内容をふまえ、実践や事例をとおして、幼児にとっての身近な環境の特性を明らかにする。</p> <p>学生自身が身近な環境に好奇心や探究心をもち、幼児の生活と結びついた保育の展開を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>日常生活のさまざまな場面で、幼児がかかわる人的環境、物的環境、自然環境について演習を交えながら学習する。そこから幼児が身近な環境に興味・関心を持ってかかわる力を育てるにはどうしたらよいか、各自で解答を導き出す。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>幼児が成長していく過程において、生活の中で出会う全ての物が大切な環境である。保育者はその環境が幼児の成長を促すものとするために、抽象的な知識を教えるのではなく具体的な直接体験として、身近な環境を通して、主体的な行動ができる力を育てていく保育とはどのような保育であるか、考える。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1～2 子どもを取り巻く、身近な環境とは <各自で栽培をする(野菜)栽培カレンダーを作る></p> <p>3 人的環境としての保育者のあり方とは(具体的な場面を通して)</p> <p>4～5 自然環境の構成①<校外に出る></p> <p>6～7 自然環境の構成②<公園に行く></p> <p>8～9 自然とのかかわりの年間指導計画を立案する 季節を保育に取り入れる工夫</p> <p>10 科学遊びの構成① 物の性質や仕組み、用具の使い方</p> <p>11 科学遊びの構成② 遊び方の工夫や保育者の援助</p> <p>12 五感を刺激する保育とは 子どもの好奇心、探究心を育てる保育とは</p> <p>13 数量と図形の生活遊びの指導計画を立案する</p> <p>14 保育環境を考える</p> <p>15 試験</p>			
[使用テキスト・参考文献] ・適宜プリントを配布する ・保育所保育指針 「事例で学ぶ保育内容 環境」萌文書林		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験と課題提出状況および修得状況と模擬保育への取り組みが到達目標の6割以上と認められる場合	

